

## IV 地域別情報

本県は、東青地域、中南地域、三八地域、西北地域、上北地域、下北地域の6つの地域で構成され、地域ごとに産業や風土など様々な特色がある。

ここでは、地域の産業構造の比較やその特長を紹介するとともに、地域別の主な指標について掲載する。

地域県民局管内図

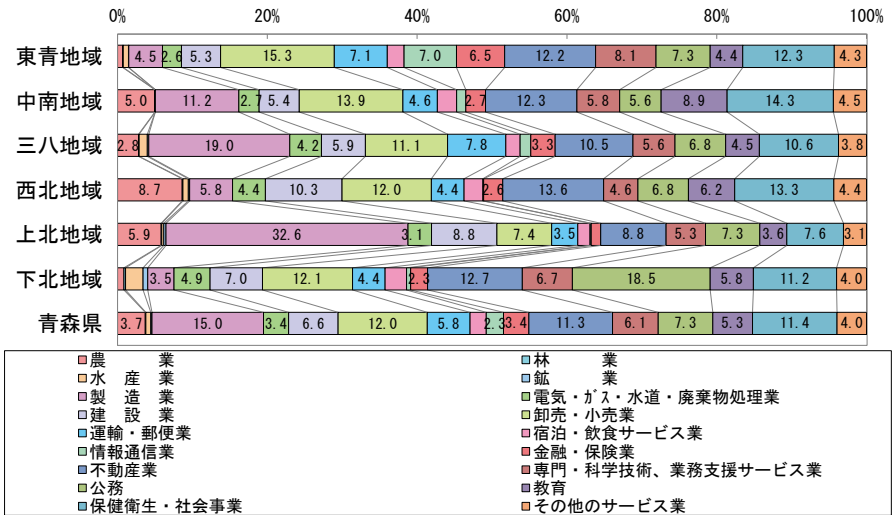


# 1 地域別の産業構造

各地域の域内総生産について、経済活動別に構成割合を見ると、上北地域を除いた5地域で第3次産業の割合が7割を超えており、特に、東青地域・下北地域では8割超と高くなっている。(図1)

他地域との比較では、総生産額の推計上、持家の帰属家賃の影響が大きい「不動産業」を除くと、東青地域は「卸売・小売業」、中南地域・西北地域は「保健衛生・社会事業」、三八地域・上北地域は「製造業」、下北地域は「公務」が大きな割合を占めている。

図1 地域別の域内総生産（2019年度）



※ 税等を控除していないため、合計は100%を超える。 資料：県企画政策部「令和元年度市町村経済計算」

## ※ 産業分類

第1次産業：農業、林業、水産業

第2次産業：鉱業、製造業、建設業

第3次産業：電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、  
 運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業  
 不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、  
 保健衛生・社会事業、その他のサービス業

※ 持家の帰属家賃…持家の住宅から得られるサービスに相当する価値を見積もり、これを住宅費用とみなした場合に支払われるであろう家賃のこと。実際には金銭の受払を伴わない。

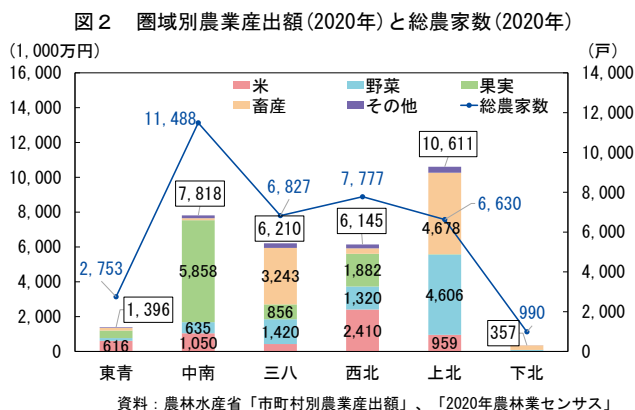
## 2 産業別に見る地域の特長

### (1) 農業の盛んな上北・中南・三八・西北地域

2020年の農業産出額は上北地域が最も高くなっており、県全体の約33%を占める。上北地域・三八地域は畜産や野菜、中南地域はりんごを中心とした果実、西北地域は米が多いなど、地域ごとに特長がある。

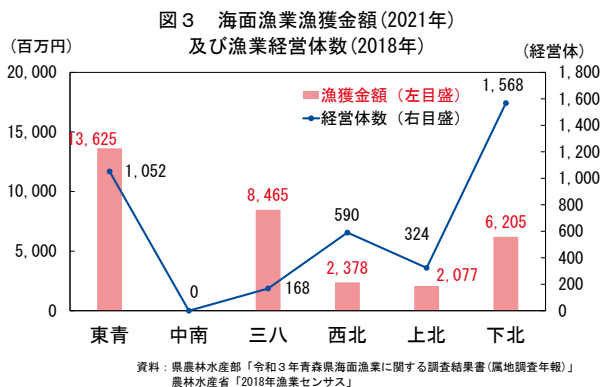
総農家数は中南地域が最も多く、次いで西北地域、三八地域の順となっている。

(図2)



### (2) 水産業の盛んな東青・三八・下北地域

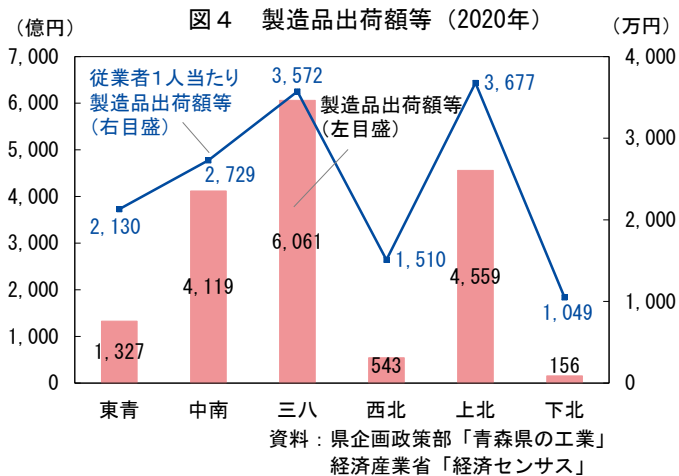
2021年の海面漁業漁獲金額は、東青地域が約136億円と最も高くなっており、2020年の約97億円から約40.6%の増となった。一方、三八地域は約85億円で、2020年の約132億円から約35.9%の減となった。大規模経営体が多い三八地域は下北、東青地域と比べて漁業経営体数は少なくなっている。(図3)



### (3) 製造業を支える三八・上北地域

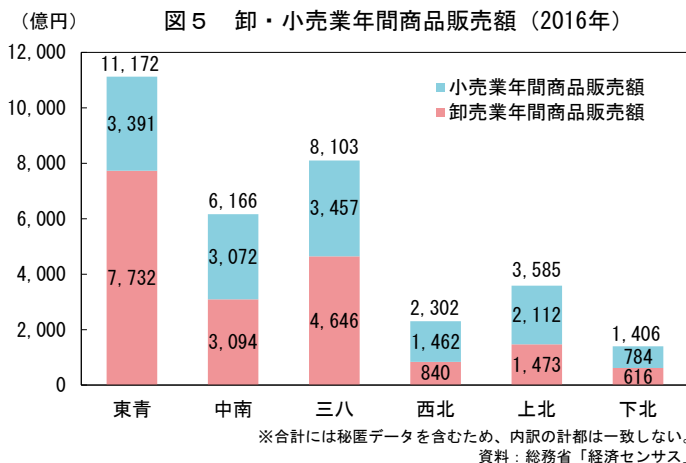
2020年の製造品出荷額等は、八戸市での食料品、飲料・飼料、パルプ・紙、鉄鋼などの出荷額が多い三八地域が6,061億円と最も高く、県全体の約36.2%を占めている。従業者1人当たりについては、上北地域が最も高い水準となっている。

(図4)



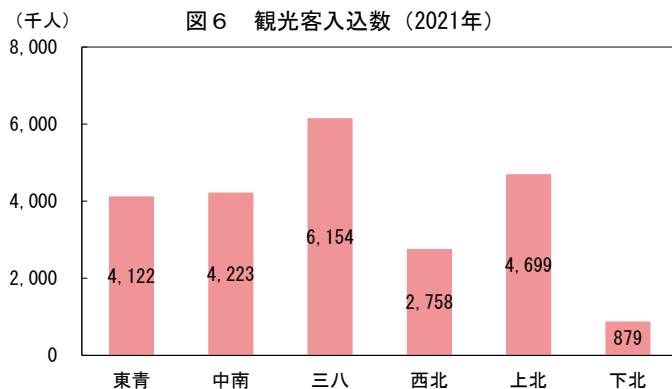
### (4) 商業の中心地・東青地域

2016年の小売業・卸売業年間商品販売額をみると、東青地域が11,172億円と最も多く、県全体の約34.1%を占めている。(図5)



## (5) 観光客が多く訪れる三八地域

2021年の県の観光客入込数は22,835千人と、新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ禍前の2019年より大幅に減少(-35.6%)している。地域別では、三八地域が2010年から11年連続で入込数が最多となっている。(図6)

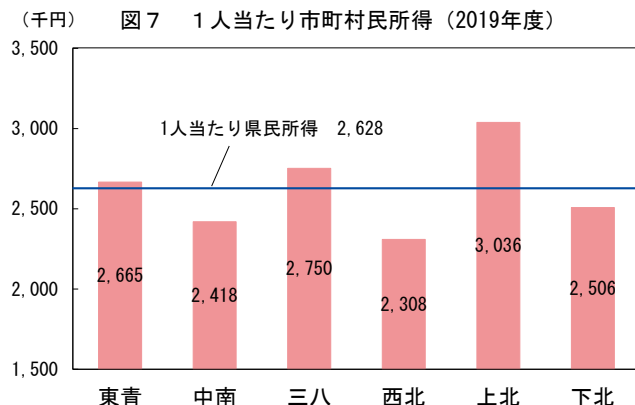


資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

## (6) 1人当たり市町村民所得の高い上北地域

2019年度の市町村民経済計算における1人当たり市町村民所得は、六ヶ所村、東通村、八戸市、おいらせ町、横浜町の順に高くなっている。

地域別では上北地域の3,036千円が最も高く、次いで三八地域2,750千円、東青地域2,665千円となっている。(図7)

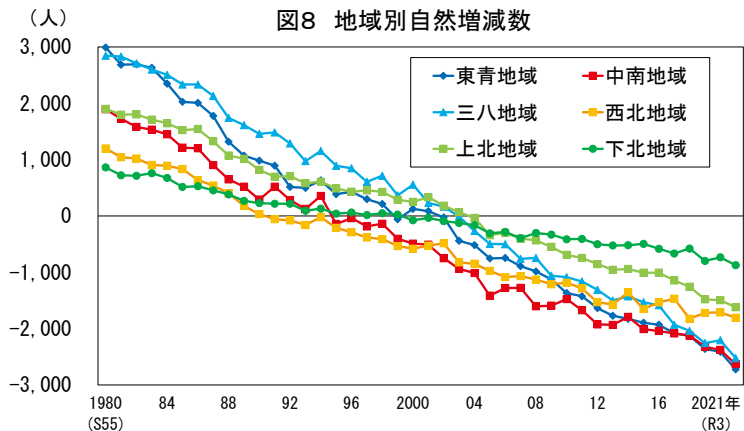


資料：県企画政策部「令和元年度市町村民経済計算」

## (7) 各地域の人口動態

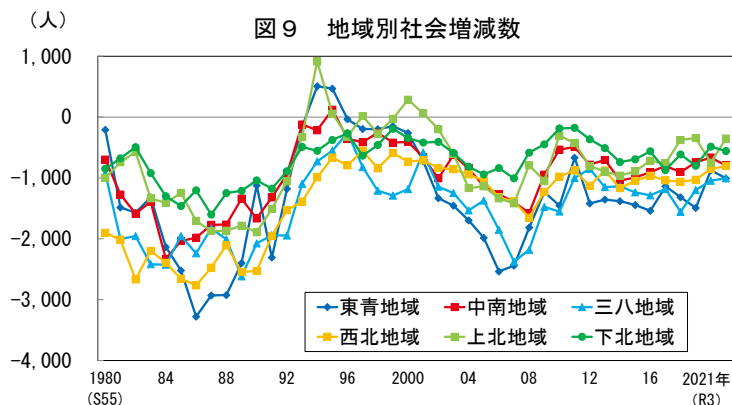
### <自然動態>

自然動態（出生数－死亡数）は、西北地域が他地域に先駆けて1991年から自然減に転じた。全県的に自然減に転じたのは1999年であったが、三八地域は2003年、上北地域は2004年と、比較的遅い段階で自然減となり、その後は、全ての地域において自然減が続いている。（図8）



### <社会動態>

社会動態（転入者数－転出者数）では、特に東青地域や上北地域において年ごとに大きな変化が見られ、経済情勢等による影響を大きく受けているものと考えられる。三八、西北、下北地域では1980年以降一貫して、2002年以降は全ての地域において社会減が続いている。（図9）



## 3 地域の現状



## 東青地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
青森市	272,752	136,781	824.61
平内町	10,332	4,826	217.09
今別町	2,375	1,357	125.27
蓬田村	2,625	1,144	80.84
外ヶ浜町	5,448	2,738	230.30
合計	293,532	146,846	1,478.11

資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
青森						
平年値	10.7	27.8	-3.5	1,589.2	1,350.7	567
2022	11.3	34.8	-8.2	1,765.1	1,700.0	600

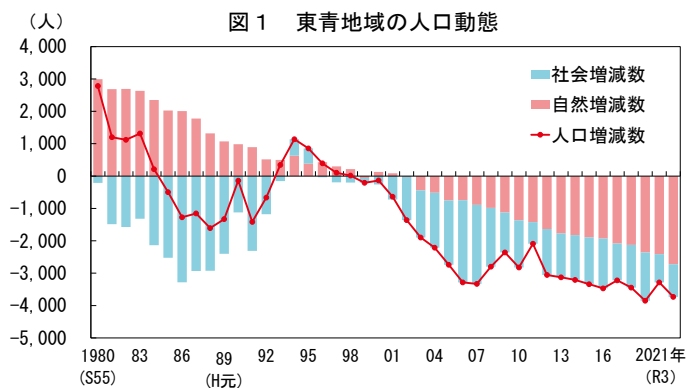
※平年値：1991～2020年の累年平均値

資料：気象庁

## ■人口動態

自然動態は、2002年以降減少が続いており、減少幅が年々拡大している。社会動態は、2020年に減少幅が縮小したものの、2021年には減少幅が拡大している。

(図1)

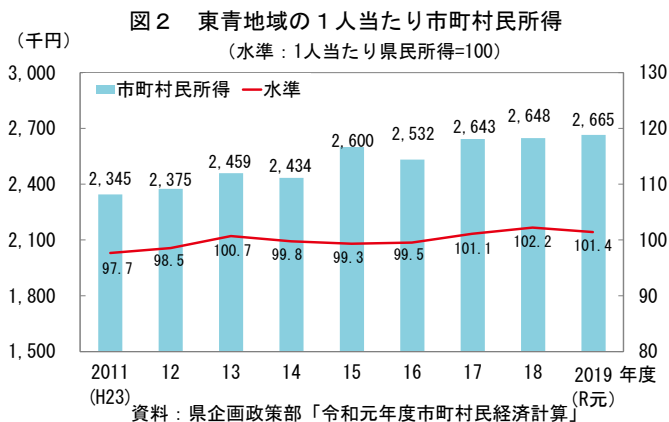


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

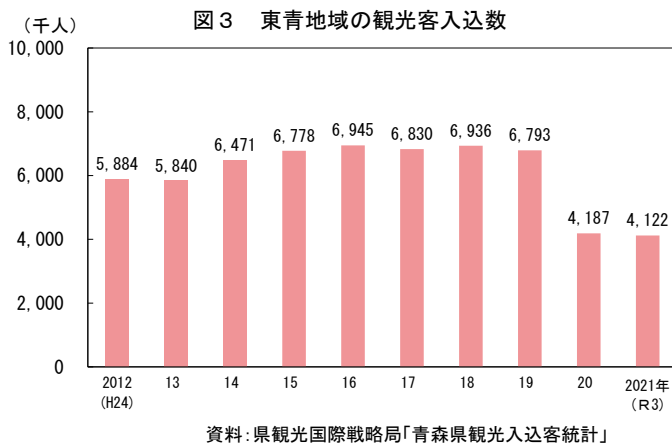
1人当たり市町村民所得は、2011年度以降は概ね増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、県と同程度の水準を概ね横ばいで推移している。(図2)



## ■ 観光客入込数

観光客入込数は、2014年以降600万人以上で推移していたが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約412万人となっている。(図3)







## 中南地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
弘前市	164,831	80,099	524.20
黒石市	31,824	13,863	217.05
平川市	30,336	12,221	346.01
西目屋村	1,289	551	246.02
藤崎町	14,627	6,131	37.29
大鰐町	8,865	4,135	163.43
田舎館村	7,529	2,828	22.35
合計	259,301	119,828	1,556.35

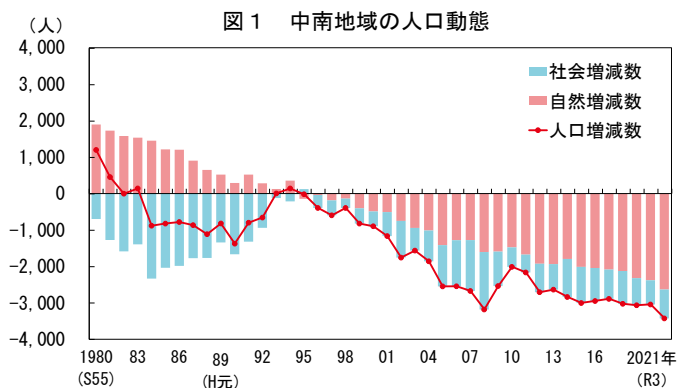
資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

地点	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	降雪量 (cm)
弘前						
平年値	10.6	28.8	-4.6	1,585.1	1,255.3	679
2022	11.1	34.9	-8.4	1,783.0	1,699.5	478

※平年値：1991～2020年の累年平均値  
資料：気象庁

## ■人口動態

自然動態は、1995年以降減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。社会動態は、2012年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）

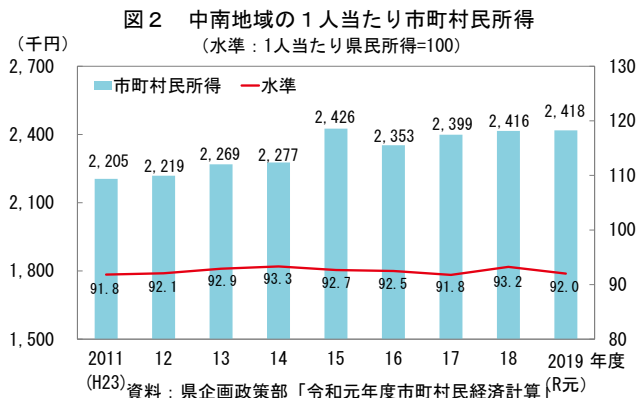


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

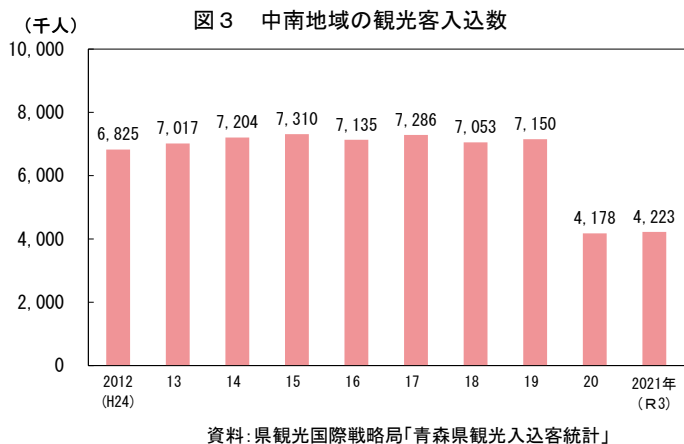
1人当たり市町村民所得は、2011年度から概ね増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、県より低い水準を概ね横ばいで推移している。(図2)



## ■ 観光客入込数

観光客入込数は、東日本大震災以降横ばいであったが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約422万人となっている。(図3)



## 三八地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
八戸市	222,173	109,635	305.56
三戸町	9,353	4,175	151.79
五戸町	16,260	7,004	177.67
田子町	5,084	2,111	241.98
南部町	17,160	7,486	153.12
階上町	13,006	6,010	94.00
新郷村	2,272	905	150.77
合 計	285,308	137,326	1,274.89

資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

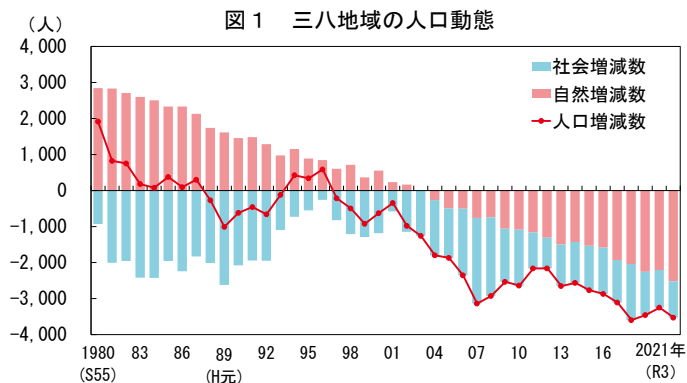
地点 八戸	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	10.5	26.5	-3.9	1,844.3	1,045.1	134
2022	11.2	34.4	-8.8	1,947.5	1,199.5	132

※平年値：1991～2020年の累年平均値  
資料：気象庁

### ■人口動態

自然動態は、2003年に減少に転じて以降、減少幅が拡大傾向にある。社会動態は、2011年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。

（図1）

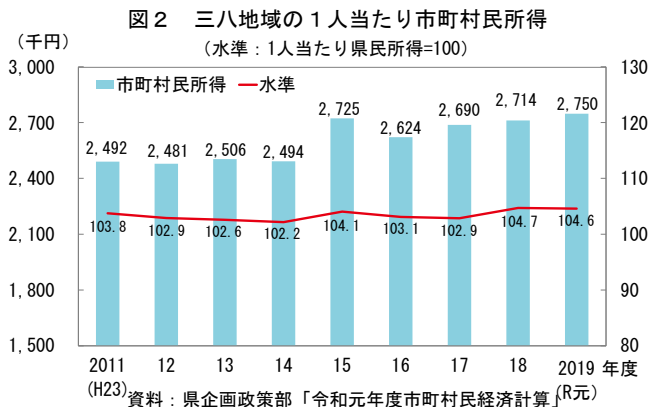


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

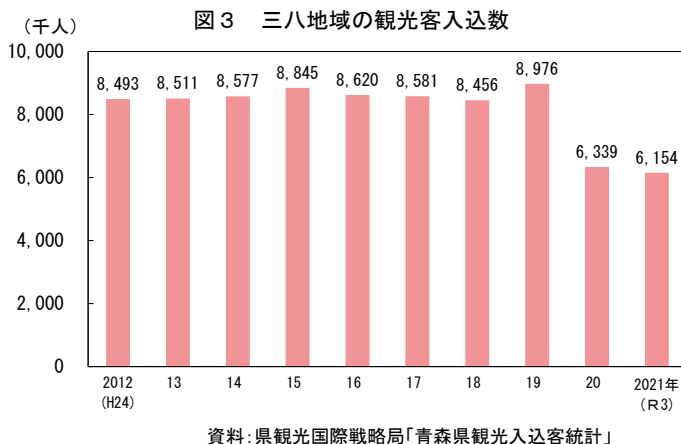
1人当たり市町村民所得は、2015年度に大きく増加し、以降はほぼ横ばいで推移している。

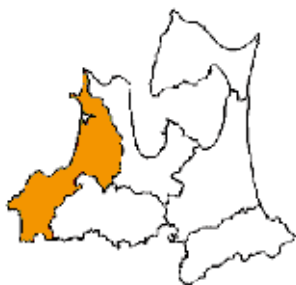
また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、県をやや超える水準を概ね横ばいで推移している。(図2)



## ■ 観光客入込数

観光客入込数は概ね横ばい傾向であったが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約615万人となっている。(図3)





## 西北地域

	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
五所川原市	52,104	25,608	404.20
つがる市	30,525	13,493	253.55
鱒ヶ沢町	9,156	4,442	343.08
深浦町	7,421	3,586	488.91
板柳町	12,837	5,445	41.88
鶴田町	12,144	5,383	46.43
中泊町	10,166	4,991	216.34
合 計	134,353	62,948	1,794.39

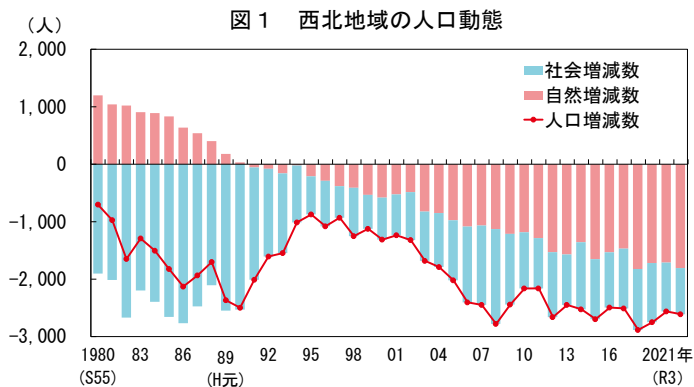
資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

地点	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
五所川原						
平年値	10.6	28.2	-4.2	1,497.4	1,280.4	543
2022	11.2	33.7	-9.2	1,677.0	1,700.5	405

※平年値：1991～2020年の累年平均値  
資料：気象庁

### ■人口動態

自然動態は、県内で最も早い1991年に減少に転じており、これ以降、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は2009年以降の減少幅は概ね横ばいで推移している。（図1）

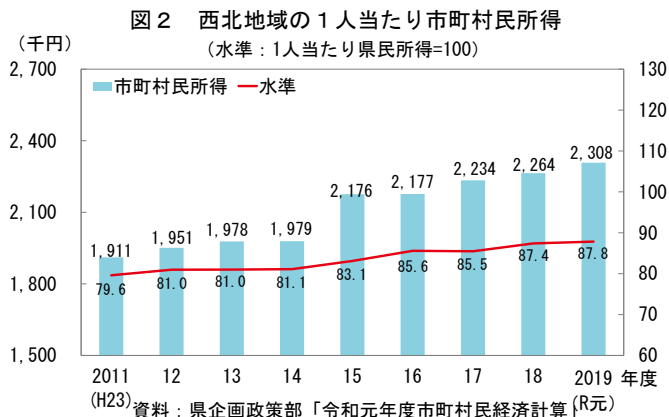


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

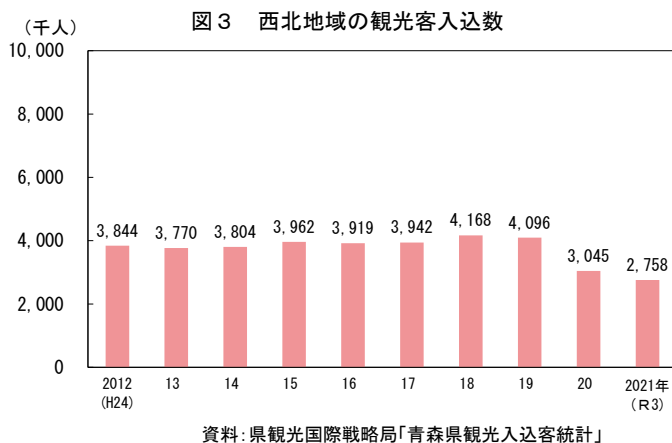
1人当たり市町村民所得は、2011年度から増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、他地域と比較して低い水準となっているものの、近年その差は縮小が続いている。(図2)

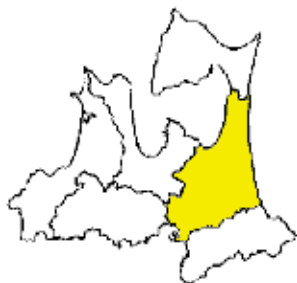


## ■ 観光客入込数

観光客入込数は、微増傾向で推移していたが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約276万人となっている。(図3)



## 上北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
十和田市	59,201	27,911	725.65
三沢市	38,185	19,287	119.87
野辺地町	12,526	6,403	81.68
七戸町	14,769	6,817	337.23
六戸町	10,869	4,591	83.89
横浜町	4,291	2,096	126.38
東北町	16,789	7,259	326.50
六ヶ所村	9,965	4,977	252.94
おいらせ町	25,230	10,675	71.96
合 計	191,825	90,016	2,126.10

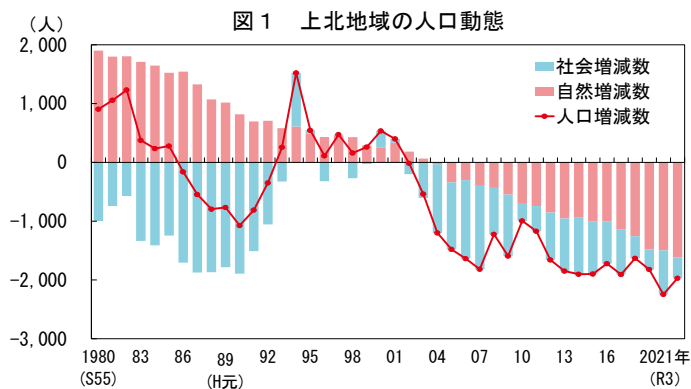
資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

地点	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
十和田						
平年値	9.8	26.7	-6.2	1,755.1	1,031.1	395
2022	10.5	33.6	-13.2	1,856.2	1,287.0	215

※平年値：1991～2020年の累年平均値  
資料：気象庁

### ■人口動態

自然動態は、2004年から減少に転じ、年々減少幅が拡大している。社会動態は、2020年に減少幅が拡大したものの、2021年は減少幅が縮小している。（図1）

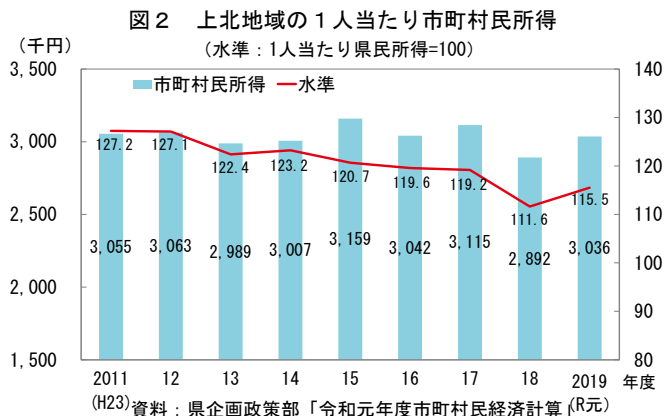


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

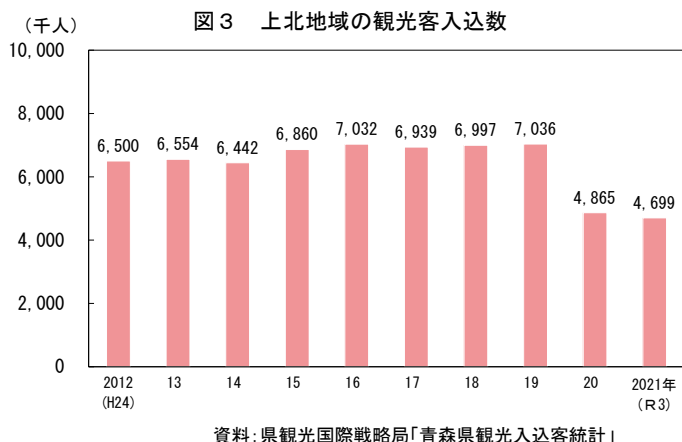
1人当たり市町村民所得は、製造業の製造品出荷額等の増加などにより大きく伸びている。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、他地域と比較して最も高い水準にあるが、近年その差は縮小してきている。(図2)



## ■ 観光客入込数

観光客入込数は、近年は700万人前後で推移していたが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約470万人となっている。(図3)





## 下北地域



	人口（人）	世帯数	面積（km <sup>2</sup> ）
むつ市	54,364	28,571	864.20
大間町	4,890	2,473	52.09
東通村	6,006	2,818	295.32
風間浦村	1,728	875	69.46
佐井村	1,777	886	135.05
合計	68,765	35,623	1,416.12

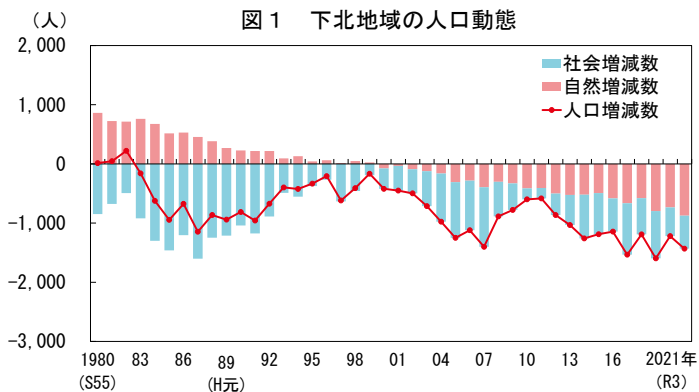
資料：総務省（人口・世帯数、2022年4月1日現在、住民基本台帳）  
国土地理院（面積、2022年10月1日現在）

地点 むつ	平均気温 （℃）	最高気温 （℃）	最低気温 （℃）	日照時間 （時間）	降水量 （mm）	降雪量 （cm）
平年値	9.8	25.8	-4.9	1,577.4	1,357.6	365
2022	16.5	31.8	-16.2	1,707.5	1,606.0	383

※平年値：1991～2020年の累年平均値  
資料：気象庁

### ■人口動態

自然動態は、2000年に減少に転じ、年々減少幅が拡大する傾向にある。社会動態は、2020年の-485人から2021年は-558人と減少幅が拡大した。（図1）

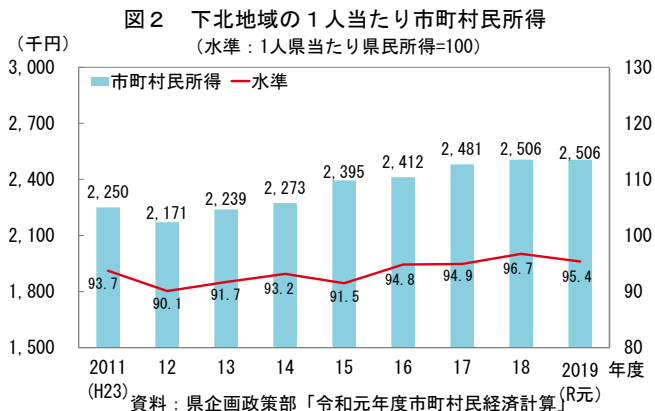


資料：県企画政策部「青森県の推計人口年報」

## ■ 1人当たり市町村民所得

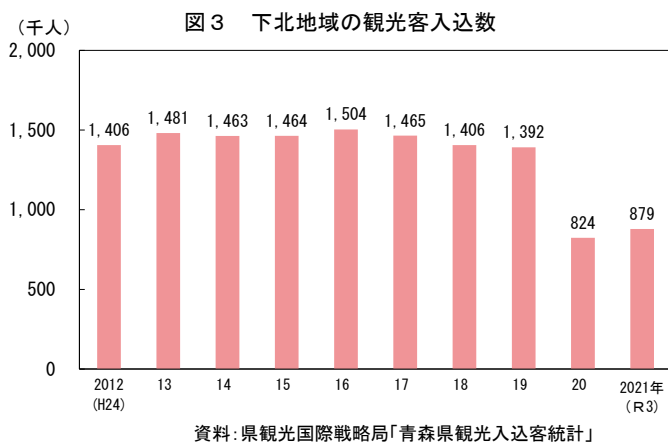
1人当たり市町村民所得は、2013年度以降は概ね増加傾向にある。

また、1人当たり県民所得に対する1人当たり市町村民所得の水準は、県の水準を下回っているものの、近年その差は縮小傾向にある。(図2)



## ■ 観光客入込数

観光客入込数は、東日本大震災以降横ばいであったが、2020年からは新型コロナウイルス感染症の影響により減少し、2021年は約88万人となっている。(図3)



## 4 地域のここが推し

### 東青地域のここが推し

#### ◆いまべつ牛～幻の黒毛和牛～

県内の肉好きの方は「いまべつ牛」をご存じでしょうか。「いまべつ牛」は、赤身とサシのバランスが最高の今別町のブランド牛です。肥育頭数が少なく、市場にほとんど出回らないことから、「幻の牛」とも言われています。

現在、「いまべつ牛」は道の駅いまべつ半島プラザ「アスクル」で提供しており、ステーキなどで堪能できます。分厚いステーキ肉は非常に柔らかく、あふれ出す旨みたっぷりの肉汁はまさに絶品！また、アスクルでは冷凍肉も販売しており、自宅でもジューシーな霜降り肉を楽しめます。

今別町へお出かけの際は、至高の牛肉「いまべつ牛」を是非ご賞味ください！



いまべつ牛ステーキ

#### ◆トマトの村の物産館～「マルシェよもぎた」～



蓬田村のブランドトマト

蓬田村は県内有数のトマトの生産地。よもぎた物産館「マルシェよもぎた」では地元特産品や新鮮野菜、そして糖度が高く、みずみずしいブランドトマトが多く揃います。寒暖差のある気候で育つブランドトマトは、甘みと酸味のバランスが絶妙なおいしさ。最盛期は津軽の雫（桃太郎）、北の雅、サマーセレブ、高級ミニトマト「ベビーベビー」などのブランドトマトが並びます。

また、「マルシェよもぎた」は玉松海岸海水浴場に隣接しており、陸奥湾を眺めながらテラスでトマト料理が楽しめます。

旨みがぎゅっと濃縮した完熟トマトを使ったパスタやオムライスが絶品です。

他では味わえないトマトを堪能してみませんか。

お出かけの際は、是非「マルシェよもぎた」にお立ち寄りください。



テラスから望む陸奥湾の風

## 中南地域のここが推し

### ◆津軽に残る数々の鬼伝説。「鬼神社」と「巖鬼山神社」



鬼神社拝殿

一般的には畏れられる鬼。ですが、津軽地方の鬼は人々を助け、地域に災いが入り込むのを防いでくれる頼れる存在なんです。弘前市鬼沢には、水不足に苦しむ村のために一晩で水路を作り、村人を助けた鬼を祀る「鬼神社（きじんじゃ 通称：おにじんじゃ）」があります。そんな人々の味方の鬼を祀る鬼神社の鳥居や拝殿の「鬼」の漢字には、ツノ（ノの字）がなく、また鬼沢では節分の豆まきはやりません。鬼は地域を守る神様として人々に大切にされています。

弘前市十腰内には津軽の山岳信仰の発祥の地とされている「巖鬼山神社（がんきさんじんじゃ）」があります。清水が湧き、大きな杉の木に囲まれる境内はまさにパワースポット。鳥居から拝殿へと延びる参道はまるで鬼が通ったあとのようです。鬼にじっと見つめられているような荘厳な空気の中、樹齢1000年以上の大杉や拝殿内の鬼の顔に圧倒されます。ぜひ、鬼のパワーを貰いに鬼神社や巖鬼山神社を訪れてみてください。



巖鬼山神社

### ◆弘南鉄道に今も残る手法「焼き嵌め（やきばめ）」



焼き嵌め作業の様子

弘南鉄道は、黒石～弘前間、弘前中央～大鰐間を運行するローカル線。鉄道の運行を支え続けている車輪整備の手法を1つ紹介します。

最近の車両の車輪は、タイヤとホイール部分（「輪心」と言います）が一体となっていますが、弘南鉄道の車両の車輪は、自動車と同じように、タイヤとホイールが取り外せる構造になっています。

そこで、タイヤが磨耗してくると、古いタイヤを外して、新しいタイヤと交換します。約200度までタイヤを加熱し、膨張させた状態で嵌め込み、温度が下がると収縮して固く嵌まる仕組みです。このようにして嵌め込む手法を「焼き嵌め」といいます。

この方法で整備する会社は全国的に減り続け、今では県外の鉄道会社からも交換作業の依頼があるんだとか。事前予約で見学することができます。

## 三八地域のここが推し

### ◆全国巨木フォーラム開催予定！「巨木の郷はしかみ」

階上町には、巨木・古木が沢山あります。推定樹齢 1,000 年で幹周が国内最大級の「銀杏木窪の大銀杏」や、推定樹齢 850 年で大きい葉が特徴的な「茨島のトチノキ」等が、民家の庭や道路沿いに立っていて、気軽に見ることができます。



「茨島のトチノキ」の花

ボランティアガイドの「階上売込み隊」が案

内する巨木めぐりも大人気！令和 5 年度には「巨木を語ろう全国フォーラム青森・階上大会」を開催予定で、全国の巨木ファンが「巨木の郷はしかみ」に集まります！



銀杏木窪の大銀杏

### ◆キャンプの醍醐味“熱々、うまい！キャンプ飯”

戸来岳を望む標高 350m の高原に広がり 65ha の広大な敷地を有する「間木ノ平グリーンパーク」では、上級ソロキャンパーからファミリー、女性キャンパーまで、互いのスタイルを邪魔することなくキャンプを楽しめます。そんなキャンプの醍醐味といえば、自然の中で出来立てを味わうキャンプ飯！

ウインナーやベーコンを野菜と一緒に煮込んだスープに南部せんべいを割り入れた

「洋風せんべい汁」や香辛料薫るチューリングーブルスト（ドイツ・チューリングル地方由来のソーセージ）をコッペパンに挟んだ「ホットドック」など、誰でも手軽に作れて美味しいキャンプ飯は、新郷村の大自然の中で食せば美味しさも倍増すること間違いなしです。

材料はパーク内に併設されている地場産品直売センターで揃えることができます。

是非、新郷村での美味しいキャンプ飯をお楽しみください。



おすすめキャンプ飯



間木ノ平グリーンパークキャンプ場

## 西北地域のここが推し

### ◆白山山地の清流で育つ「赤石川の金アユ」

世界自然遺産登録 30 周年を迎える白山山地を源流とする赤石川に生息するアユは、魚体が金色を帯びていることから「金アユ」と呼ばれ、美しく輝く魚体と優れた香り・食味から、毎年、アユ釣りが解禁となる7月から9月にかけて、全国各地から多くの釣り人が訪れます。

金アユは、シンプルに塩焼きがおすすめです。アユ特有の香りと風味をしっかりと味わうことができます。

また、アユの味わいにはワタ（内臓）が欠かせません。ぜひ「がぶっ」と丸かじりでお楽しみください。そのほか、田楽やうるか（内臓の塩漬け）、飯ずしでも食べられています。

鱒ヶ沢町では、金アユの資源維持のため、アユ増養殖事業を展開しています。鮮魚は、7月～8月上旬の期間限定で提供。活締め・瞬間冷凍した「青森・赤石川の金の鮎」は通年で提供しており、ふるさと納税の返礼品としても人気があります。



青森・赤石川の金の鮎

### ◆もう一つの青池「<sup>わきつぼ</sup>沸壺の池」

世界自然遺産登録 30 周年を迎える白山山地の麓に位置する深浦町内観光スポット「十二湖」。その奥には青く澄み切った青池が佇んでおり、県内外から毎年多くの観光客が訪れています。

その青池から遊歩道を 10 分程度歩くと、ザーッと水のせせらぎが聞こえ、その流れに沿って歩くと、もう一つの青池が現れます。

この池は「沸壺の池（わきつぼのいけ）」と呼ばれ、青く湖底が見えるほどの透明度で、青池に引けをとらない美しさです。その水は「沸壺池の清水（わきつぼいけのみず）」として環境省の「平成の名水百選」にも選定されており、休憩所「十二湖庵」ではその水で立てた抹茶をいただくことができます。

青池を巡った後には、ぜひもう一つの青池にも訪れてはどうでしょうか。きっとその幻想的な青の美しさに驚くことでしょう。



沸壺の池



## 上北地域のここが推し

### ◆旨味や歯応えを高めた特別飼育「青森シャモロック ザ・プレミアム#6」

マスコミなどにも幾度となく取り上げられ知名度向上中の「青森シャモロック」。県内の指定生産農場のみで育てられ、宮内庁管轄の御料牧場にひなが出荷されている唯一の地鶏です。

六戸町は、さらに旨味や歯応えなどを向上させた「プレミアムな青森シャモロック」の生産に2016年度（平成28年度）から着手しています。通常の出荷日齢である100日を迎えた雄に、にんにく粉末等を加えた仕上げ飼料をさらに30日間与え、飼育密度を減らし丁寧に飼育、「青森シャモロック ザ・プレミアム#6（ナンバー・シックス）」として名付け、デビューさせました。



青森シャモロック  
ザ・プレミアム#6

「美食の世界カップ」とも言われる「ボキューズ・ドール国際料理コンクール2023」の日本代表選考会「ひらまつ杯2022」において、課題食材に選ばれるなど、料理のプロも認める「深いコクと旨味」が特徴です。通常飼育と比較して、旨味の目安となるグルタミン酸が約1.6倍、歯応えが1.4倍、健康に良いとされるα-リノレン酸が2.6倍含まれています。

特産の野菜と一緒にあつあつの鍋料理でいただくと、肉と野菜の旨味が互いを引き立て合い、最後の一滴まで飲み干したくなります。「滋味あふれる特産の野菜が引き立つ」奥深い味わいで、濃厚なのに雑味の無いすっきりした出汁が一番の特徴です。また、肉はきめが細かく締まっていて、噛めば噛むほど肉汁が「ジュワ〜ッ」と口いっぱいに広がり、地鶏本来の旨味を感じさせます。

現在、六戸町で年間500羽のみの限定生産のため、町内飲食店や東京都内レス



希少な青森シャモロック  
ザ・プレミアム#6なべ

トラン等数店舗のみの取扱いとなっています。

おススメは、町内にある「仕出し・宴会のもりとみ」。鉄板焼きや鍋物、炊込みご飯等のコース料理が人気で、青森シャモロック ザ・プレミアム # 6 の肉やお出汁の味をシンプルに味わうことができます。昼と夜どちらもお食事可能ですが、要事前予約です。

ぜひ一度、六戸町でしか飼育されていない、青森シャモロック ザ・プレミアム # 6 をご賞味くださいませ。

### ◆いちよう公園と日本一の自由の女神像

おいらせ町にあるいちよう公園は、町のシンボルである自由の女神像と四季折々の景色を楽しめる公園です。春は桜が一面に広がり、夏は紫陽花が堤の周りを賑やかに彩ります。そして秋には、いちようの黄葉が公園中を黄色く埋め尽くし、冬には町の鳥である白鳥が飛来するなど、一年を通じて、その時期にしか見られない姿があるので、いつ訪れても新しい発見ができるスポットです。



満開の桜に囲まれた自由の女神像

公園のシンボル、自由の女神像は、おいらせ町がアメリカのニューヨーク州と同じ北緯 40 度に位置する事を縁として、実物の 4 分の 1 のサイズでつくられた、日本一大きな自由の女神像です。2020 年に 30 周年を迎え、塗装を新たにした自由の女神像は、四季折々の景色になじんで、おいらせ町でしか見られない風景を見せてくれますので、皆さん是非お越しください。



## 下北地域のここが推し

### ◆澄んだ青い空に映える「白亜の灯台」

尻屋埼灯台は、本州最北東端の岬、尻屋崎の先頭に建つ灯台です。

イギリス人技師、ブラントンの設計により 1876（明治 9）年に完成したこの灯台は、東北地方で最も古い洋式灯台で、高さは 32.8m とレンガ造りでは日本一の高さを誇ります。

また、霧が発生しやすい海域であることから、明治 10 年に日本で初めて霧信号が設置されました。

このような歴史的価値等が評価され、国重要文化財に指定されました。

尻屋埼灯台は現役の灯台ですが、毎年 4 月から 11 月上旬まで中に入って見学することができます。

128 段のらせん階段を上ると、そこには空、青い海、草原という絶景が広がっています。尻屋崎では津軽海峡と太平洋が交わっており、灯台の上からその波がぶつかる様子を眺めることができます。

本州最北東端で、歴史と絶景に触れてみてはいかがでしょうか。



尻屋埼灯台

### ◆大間の陸マグロ「大間牛」

黒いダイヤモンドと称される最高級品「大間まぐろ」で有名な大間町には、「陸（おか）マグロ」と呼ばれる食材があることをご存知でしょうか。それは、西吹付山の麓にある大間牧場で飼育肥育されている黒毛和種の「大間牛」です。

本マグロにも引けを取らない最高等級の A5 ランクに評価されることもある美味しさ

の秘密は、津軽海峡から吹き付ける強い潮風を浴びてミネラル分を豊富に含んだ牧草にあるとされています。かつての下北地方は、南部藩の官営牧場として大間、奥戸で優秀馬の飼育に当たっており、古来から畜産に適した環境であったことが伺われます。

「マグロ」の本場で、大間まぐろと陸マグロの贅沢な食べ比べはいかがでしょうか。



大間牛のすき焼き

